



日本近代化の舞台「呉」

呉市長 新原 芳明

私は、生まれ育ったふるさと広島県呉市に戻り、大変厳しい選挙を2度戦い、現在市長2期6年目です。呉の誇りは、戦艦大和を造ったことです。ちなみにJR呉駅の列車接近メロディは、「宇宙戦艦ヤマト」です。

1853年大砲を搭載したペリーの黒船が来航し、我が国は、産業革命による技術力、産業力の差を思い知ります。1867年に大政奉還が行われ、翌年明治になりました。新政府は、横須賀、呉、佐世保、舞鶴の4つの鎮守府を設置します。その中で呉だけは、瀬戸内海のおお中央にあり、海沿いでは外洋から一番遠いところにあります。ここは、日本の中で、海外列強の軍艦から一番守りやすい場所でした。海軍は最初からここに産業近代化の先頭となる、海軍最大の兵器工場と造船所を置くことを考えました。1889年（明治22年）に呉鎮守府が設置されます。イギリス人が神戸に設立し、海軍が買収した小野浜海軍造船所などから施設を移すとともに、幕府が建設をはじめた横須賀造船所などから、海外から指導を受けていた技術者や技術を呉へ移転します。

その後、海軍は国産化のための綿密な計画のもと、イギリスなど外国から当時の世界一の兵器や軍艦を輸入し、建造中に技術者を現地に派遣して、技術移転を行いました。輸入した兵器や軍艦を修理することで、更に急速に技術が向上しました。特に大砲、機関砲などの兵器の生産では、呉は国内で圧倒的な地位を占め、世界でもほぼ最新鋭の

兵器工場となりました。ついに1920年（大正9年）には、41センチ砲を備えた当時世界最速最大の戦艦「長門」が呉で竣工します。同型艦の「陸奥」とともに、

英米の軍艦と合わせ世界のビッグセブンと呼ばれました。1941年（昭和16年）には、史上最強の46センチ砲を備えた戦艦「大和」が竣工しました。

長門竣工まで、黒船から67年、明治改元から52年、呉鎮守府設置からわずか31年、世界が驚く急速な近代化です。

原価計算、工程管理、休暇制度なども呉工廠で洗練されました。また呉では、海軍の航空機の開発製造も行い飛行場もありました。そして、呉の工廠の技術やありかたは戦後我が国のあらゆる分野の産業や社会の発展に波及しました。

呉市立の大和ミュージアムで、呉の工廠を舞台とした日本産業の近代化について研究展示しています。同館は、現在呉のこうした役割に一層焦点をあてるなどのリニューアルを予定しており、令和7年度の新規開館を目指しています。ご期待ください。

